



## 木もれびの森の虫たち

簡単に昆虫について、基礎的な知識をおさらいしましょう。

- \* 昆虫の成長の仕方… **完全変態**: 甲虫、ハチ、アブ、チョウなど さなぎの期間がある。  
**不完全変態**: バッタ、カマキリ、セミ、カメムシ、トンボなど、さなぎにならず幼虫から直接成虫になる。
- \* 昆虫の特徴… 頭・胸・腹3つの部分に分かれる。3対の脚を持つ。翅を持つ。1対の触角を持つ。
- \* 最も古い昆虫の化石は約4億年前のもので、恐竜が現れるずっと前。トンボやゴキブリなど。
- \* 昆虫は外界の温度に左右されてしまう変温動物で、人間のように体温を一定に保つことはできない。木もれびの森で冬に活動しているフユシャクガは特異な存在です。
- \* 昆虫には血もあるし一部の鳴く種類には耳もあるが、殆どの昆虫には耳がなく、音は触角や毛で感じる。
- \* 口で息をせず気門という穴で呼吸している。(海野)

5月～8月撮影 場所: 活動地 A～H 地区および中央緑地



テントウムシの抜け殻



カメムシ類



トホシオサゾウムシ



アオカミキリモドキ



ヨツボシケシキスイ



ゴマダラカミキリ



ホソヘリカメムシ



シロトラカミキリ



アトボシムシ



アカスジカメムシ



カナヘビのペア



モンキコロメクラガメ



クロウリムシ



ナミテントウ



トウキョウヒメハンミョウ



ハバチの幼虫



アオハシゴロモの幼虫



エゴツルクビオトシブミ



カブトムシ



エダナナフシ

## 用水路沿いの植物 チガヤ (茅萱)

初夏の用水路の土手…、白波のように揺れるチガヤの花穂を思い出します。

この森の中ではあまり見かけませんが、畑地の間を走る用水路跡地では小さな群生した姿を見ることが出来ます。春先には若い花穂は葉に包まれていて、これを子供の頃にふわふわした舌触りと甘さを楽しんだ記憶があります。初期の花穂は雄しべ雌しべともに赤く全体に赤く見えますが、初夏になると銀白色に変わり、群生状態で陽射しの中でいっせいに風にゆれる様は壮観です。初冬になるとチガ

ヤの葉は南向きの斜面では特に赤紫色を帯びて非常に美しく紅葉します。イネ科の多年草。別名:ツバナ(茅花)根茎が発達して地中をはい群生します。その強靱な地下茎はしっかりと土壌を緊縛し、また草刈や野焼きにも耐えるため、河川堤防法面の外来種の草にかわる植物として利用されます。根茎の先端部は筍に似た形をしていて、その先端部が地上に現れて新しい株を形成します。稈(かん)は直立し高さ 30~80 センチ、稈先に



綿毛に包まれた円柱状の花序を作る。花期5~6月。日本全土、およびアジア、アフリカ、ヨーロッパの暖地に広く分布し、世界の最重要害草 10 種のうちの 1 つとされています。



水面に浮葉を長く伸ばして漂う水草が木もれびに輝く用水路。時々こんな景色を夢想します。せつかく作られた水路に水が見えないのはなんとも残念です。(岩田)

### こもれびの森の樹木(32)

#### コゴメウツギ(バラ科コゴメウツギ属)

右の写真を見ると何だかごちゃごちゃしていますね。そう、これがコゴメウツギの特徴なのです。図鑑には「丈1~2m の落葉低木で、幹は群がって立ち、横に広がり、多く分枝する」と記述しています。冬になると枯れた薄茶色の細い幹が本当にごちゃごちゃと見苦しいほどです。しかし、初夏には直径4mmほどの小さな白い花を枝先にたくさん咲かせるのです。花弁5枚の清楚な花ですね。花を、砕いた米に見立てて、小米空木(こごめうつき)と名付けたそうです。近くに寄ってじっくりと観察してみてください。なかなか味わいのある花ですよ。葉は三角形で縁に切り込みが浅~中裂します。開花前の全体の姿は前回紹介したモミジイチゴによく似ていますが、コゴメウツギの茎には棘がないのが決め手です。この低木はとてもしたたかです。



大風が吹いても、大雪が積もってもしなやかで簡単には倒れません。下刈りの時に刈払機に地際で伐られても翌年にはしっかりと立ち上がります。ところで、「♪夏は来ぬ~」の卯の花はウツギのことですが、ウツギはアジサイ科なのでコゴメウツギとは科が違います。ウツギの葉は対生し、コゴメウツギでは互生します。ウツギの仲間ではないけれどウツギのようだというので、コゴメウツギと名付けたのでしょうか。こもれびの森の初夏を彩る花です。(鳥飼)